

(下線は更新点を示す。)

平成 29 年 1 月 25 日
(1 月 27 日 更新)
動 物 衛 生 課

【OIE 情報】 アイルランドにおける牛海綿状脳症 (BSE) の発生について

アイルランドにおける牛海綿状脳症 (BSE) (非定型、L型) の発生について、OIEへ緊急報告がありましたのでお知らせいたします。

なお、アイルランドから輸入される牛肉等については、食品安全委員会によるリスク評価結果を踏まえ、条件を設定しています。

OIEウェブサイト上、アイルランドの獲得している「管理されたBSEリスク」ステータスに変更はありません。

出典：OIEウェブサイト

(2017年1月24日付け、緊急報告)

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=22493

(2017年1月26日付け、続報1・終報)

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=22556

(OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。)

【概要】

- ・発生数：1件 (緊急報告)
- ・発生日：2017年1月13日
- ・OIEへの報告日：2017年1月24日

【発生状況】

- ・ゴールウェイ州 ラウレアの農場

【動物種】	【感受性動物数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
牛	3	1	0	3	0

- ・生存していた2頭のコホート牛 (電子データ上の当該事例のコホート牛218頭は死亡[※]) は2017年1月23日に殺処分され、迅速診断検査に供された (1月26日更新: コホート牛は2頭ともBSE陰性)
- ・当該事例の産子12頭は既に死亡[※]していた

[※]動物衛生課注：当該動物は18才齢と高齢であったことから、コホート牛及び産子については、既にと畜等により死亡していたという意味と思われる

【疫学情報】

- ・感染源：不明または調査中
- ・1月14日、農業・食料・海洋省 (DAFM) は管轄当局によって認可された民間研究所で実施された迅速診断検査の結果が陽性であったとの報告をうけた
- ・疑い動物は、48か月齢以上の全ての死亡 (農場での死亡) 動物に対し実施中の公的サンプリングの一環として、廃牛処理場においてDAFM職員により採材された
- ・採材された材料及び脳は、異なる脳の部分を用いてOIE認定ウエスタンブロット法を利用した確定診断を実施するために、国立リファレンス研究所 (NRL) へ送付された
- ・全ての検体がL型非定型BSEの分子パターンを示した
- ・NRLのプロトコールに従い、当該動物の検体は、OIEが定めるBSEの確定診断法である脳髄質の組

組織学的検査及び免疫組織学的検査に回されており、これらの検査の結果は今週判明する予定である

- ・ L型非定型BSEであるという最終確定診断の結果は、2017年1月18日にNRLから届いた
- ・ 当該動物は1998年3月5日生まれの雌のアバディーン・アンガス種であり、コーク州で生まれ、その後早い時期にゴールウェイ州の農場に移った後はずっと同じ農場で飼養されていた
- ・ 当該農場主は、当該動物が死亡する前2週間にわたり硬直状態を示していたと報告した
- ・ 当該動物は1月11日に倒れた後で回復したが、1月13日の朝に再度倒れたことから、安楽殺された
- ・ 当該動物について、全ての時期において食欲の減退は認められなかった

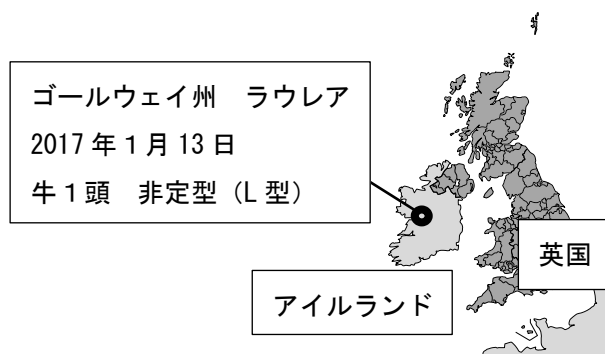
【対応】

- ・ 国内における移動制限
- ・ 死体、副産物及び廃棄物の公的処分
- ・ ワクチン接種許可（ワクチンがある場合）
- ・ 患畜を治療対象としない

【診断】

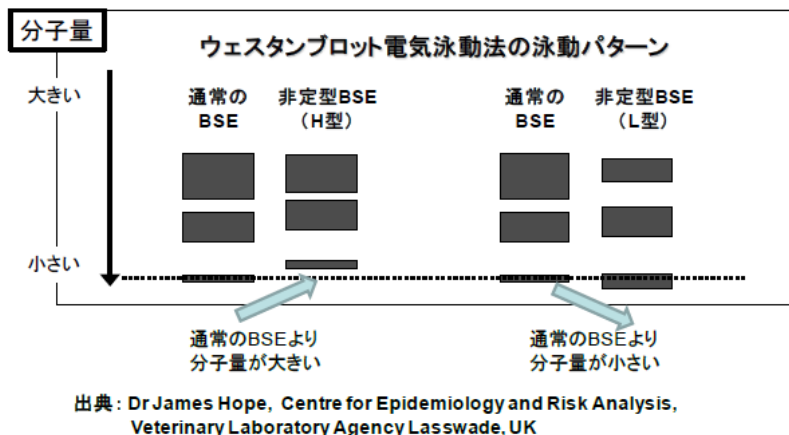
- ・ 診断施設：Enfer研究所（民間研究所）
- ・ 診断方法：迅速診断：陽性（2017年1月14日）
- ・ 診断施設：中央獣医研究所（国立研究所）
- ・ 診断方法：ウエスタンブロット：陽性（2017年1月18日）、免疫組織学的検査：陽性（2017年1月24日）、病理組織学的検査：陰性（2017年1月25日）

【参考1】発生地図



【参考2】非定型BSEとは

- ・ウェスタンブロット法によるBSEの確定診断の結果（電気泳動像）が、従来のBSEとは異なるパターンを示すBSE症例が、2003年以降、各国で確認されており、非定型BSEと呼ばれている。



- ・非定型BSEは、従来のBSEと比較して世界でも確認されている症例数は少ないが、食品安全委員会によると日本の一例を除き、ほとんどの非定型BSEは、8歳を超える高齢牛で確認されており、年齢の幅は6.3～18歳と報告されている。
- ・食品安全委員会によると、現時点では非定型BSEの起源は明らかになっていない。EUでは汚染された飼料による可能性を排除することはできないとする一方で、フランスでの非定型BSEの発生頭数の分布から、これまでの定型BSE（通常のBSE）とは異なり特定の出生年との関連が認められていないため、孤発型（原因不明で発症するもの）のプリオン病との解釈も示されている